

2023年5月22日(月)曇り、歩く予定であった「㉔ニホンザルにであうみち」コースは、崖崩れのため通行止めとなっているので、歩行を断念して、㉔コースを歩く事とした。

このコースも一部崖崩れがあり、千葉県環境生活部自然保護課から指定された迂回路を通り、九十九谷を歩いた。名の通り谷が深く、谷と尾根を縫うように水平林道が走っている。車も来ないし、ルンルン気分で歩いた。



関東ふれあいの道(千葉)㉔九十九谷をあるくみち(千葉県ホームページ)  
黄色区間、崖崩れのため通行止め



同原図(青色い表示は迂回路)



「㊤丸十九谷をあるくみち」案内板



ホテル ビラ前バス停に 7:56 発 君津市のコミュニティーバスが来る



このバスに乗って、隣町の東日笠バス停で降りる





そこから 30 分歩いて、出発地の植畑上郷バス停に行く



石射太郎山へは崖崩れのため通行止めであるから



指定された迂回路の国道 465 号線を歩く、歩道がないから危ない





国道を 2.5km程歩くと、石射太郎から来る道に合す、行き先は鹿野山となっている



シロヤシロの花が満開、コースの至る所で咲いていた



名の通り九十九谷に入る。大断層地帯を行くが、ここは崖崩れがなさそうだ





千葉県が海中に在った時代、土砂が年輪のように積み重なった様子が観察できる



風化したり、雨に侵食されたりして積層が消えてゆく中で、良く残されている



尾根の張り出しには、所どころトンネルで潜り、風景がその都度変わる





土砂で道が塞がっている所もあるが、車は通れそう



山側は崖地で、谷側は開けた台地となっている



マザー牧場への案内が出て来た





マザー牧場方面直進は通行止め、迂回路で鹿野山方面に向かう



この筍食べられますよね！



鹿野山頂上付近の社





安藤広重描く「上総鹿野山鳥居崎」眺望の素敵な場所であったと言うが、今は木々が生い茂り、昔の風情はない



社の前の「庚申塔」には「きよすみ」、「大山」、「なこて」ミチ



明和3年(1765)東「きさらず道」施主鹿野山上町下宿念仏講と記す





鹿野山神野寺へ 500mゴールも近い



縁起によれば、推古天皇六年(598)聖徳太子の開山による。平安・鎌倉時代は天台の道場として栄えた。



天文年間(1532)には里見氏(久留里城主)が再興を図っている。江戸時代には徳川家康が寺領を寄進したが、元和七年(1621)火災により堂塔伽藍は灰燼に帰した





地元の案内板にしたがって、白鳥神社にお参りしてこよう



「白鳥神社」 起源は、ヤマトタケル東征の砌、この地の悪を退治し平安にしたので、住民は尊の神霊をここに祀ったと記す



久留里城主里見義堯も崇敬して寄進している





14:30 神野寺発 JR 内房線佐貫町行きバスが来た。



佐貫町駅発 15:23 に乗ると、君津駅から逗子行の横須賀線が接続しているから便利だ。  
グリーン車に乗って、ビールを飲んで、ひと眠りすれば 18 時過ぎには横浜に着く

[参考タイム] ホテル前バス停(7:56)→東日笠バス停(8:15)→植畑上郷バス停(8:45-8:55)→  
九十九谷への道合流(9:05)→マザー牧場への道出会い(12:20)→神野寺(13:10-13:30)→  
白鳥神社(13:40-13:45)→神野寺(14:00-14:30)→佐貫町駅(14:58-15:23)

この項完

「関東ふれあいの道(千葉)②⑥東京湾を望むみち」に続く